

## シンポジウム1「次世代中医学を目指して：我々は何をすべきなのか？」

東京中医鍼灸センター院長  
浅川要

次世代の中医鍼灸学に関して、下記のように考える。

①日本における中医針灸学の役割は、未来の日本鍼灸学創設の礎となることである。

②具体的には、1950～60年代に中国で打ち立てられた中医針灸の臓腑・気血・経絡弁証論治を日本に導入し、日本の自然と社会状況に合わせた新たな「臨床に耐えうる日本鍼灸学」を作り出さなければならない。

③上記の①、②を満たすために、この10年間の創設期を経て、今後の10年間に、日本中医学会が目指す目標は以下の①、②、③、④である。

①日本中医学会鍼灸部会を立ち上げる。

②部会内に学術委員会を設置し、経絡、経穴など中医鍼灸学に関する様々な学術的議論を行い、学会の機関誌に発表していく。

③日本中医学会の教科書『中医鍼灸学総論』、『中医鍼灸学各論』を制作する。そのために部会内に教科書委員会を設置する。

④中医学の弁証論治に基づいた実践的鍼灸師を養成するために部会内に中医鍼灸師認定制度委員会を設ける。基礎講座、診断講座、臨床講座、刺鍼実技講座など複数の中医鍼灸講座を設け、各講座を例えばそれぞれ10回として、これらの全講座を受講した鍼灸師生には、日本中医学会認定中医鍼灸師の資格を授与するなど、委員会内で具体的に検討する。